

K. O. 英語英文学科・4 年次

I. 留学レポート

① 留学決定から出発までの準備期間

主に体調管理を中心として、体作りをしました。歩ける距離なら電車に乗らず、30分1時間と歩いて体力をつけました。

② 語学研修 (ESL, Academic Skills Study) 期間

毎日出された課題をこなすだけでなく、私の場合は Speaking 力をつけるべく色々な人と積極的に交流するように心がけました。随時イベントやクラブ活動にも参加し、交流の幅を広げました。また、Speaking 以外では大学側が提供している発音のレッスンを受けたり、インターネットのシステムを使った勉強法で、語彙力や文法力の向上に努めました。

③ 正規科目履修期間

- ・ 履修科目の決定

以前から自分が取りたいと思っていた分野の科目を中心に、カナダにおいて興味が沸いたこと、挑戦してみたい教科を取りました。

- ・ 授業、レポート、定期試験

一番初めに受けた授業は、生徒と対話を進めながら授業を進めていくゼミ形式の授業で、始めはとまどいもありましたが徐々に慣れていき、授業中発言することに

④ クラブ、課外活動、ボランティア活動

毎週1回のサルサダンスのサークルの他、友達と小さなダンスグループを作り、活動をしたこと。

⑤ 現地での住まい (語学研修期間、正規科目履修期間) について (寮・ホームステイの決定方法、設備、イベント紹介など)

最初の3ヶ月はホームステイをし、カナダ人の家族と一緒に暮らすことでカナダの文化や人と接することが出来ました。寮に友達はいましたが、毎週パーティーで忙しそうだったので覚えていません。なので私にとっては寮に住むよりホームステイか、友達とルームシェアをして正解だったなと思いました。

⑥ 長期休暇の過ごし方

長期休暇は主に出来るだけ色々な国、場所を回りました。メキシコに行った時には、授業で習ったスペイン語で現地の人とコミュニケーションをとって、言語を学ぶ面白さを再確認しました。

⑦ 留学期間中の就職活動の取り組み

特になし

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

サルサダンスを通して色んな人々と会えたことが、最高の思い出となりました。旅行先では勿論サルサダンスを踊り、現地の人との交流を楽しみました。大学の授業でも友達が出来、テスト勉強や課題をともにしたこともいい思い出です。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

友達とルームシェアをしていて、前の人から引継ぎで家具をもらったら、その家具にダニが住んでいて毎日のようにさされかゆくて夜もろくに眠れない日が1, 2ヶ月続き、頭がおかしくなりそうだった。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

Yes, No とはっきり意思表示をしないとイケないと思っていたのですが、カナダ人は自分の意志を示しつつも、何かの申し出を断るときはダイレクトに言わず、結果的に相手側に No ということを悟らせる日本的な習慣があるということに気づいた。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

人数の大きな授業のクラスでは、クラスの子と一体感をもって取り組むことが難しかった。それにくらべ少人数のクラスでは、みんなの名前を覚えられるくらい親密になれた。言語のクラスでもペアワークでペアになった人とその後も時間があつたらどこかへ行ったり、一緒に勉強したり出来た。Uvic のおのおののセンターでは、学生の質問にはわかるまで紳士に取り組む姿勢がいつもみられたことも、Uvic を魅力的な大学へするひとつの重要な点だと思います。教授陣に関しては、さまざまな授業形式をもった方が多い中、共通していえるのは授業中に学生の質問や意見を積極的に取り入れるところだといえます。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの（パソコン持参の有無も含めて）

パソコンは持っていなくても、Uvic には色んな場所にパソコンが設置させてあつたり設備が整っていたので不便はしませんが、持っていくことに越したことはないと思います。実際私はパソコンを持って行って大変重宝しました。スカイプや MSN のメッセージャーを使い、パソコンを通して学校の友達を連絡を取り合ったり、親とチャットをしたりと色んな使い道が広がると思います。

③ 語学力の向上等、留学の成果

ESL にいる時に、英語を話すことに抵抗を感じなくなってきた、正規の学生として Uvic で授業を受け始めたときに、英語を第一言語として話す人への抵抗がなくなりました。日本に帰ってきた今は、近くで困っている外国人の人には自分から話しかけることもたまにあります、リスニング力も気づかないうちにグングンと伸び、先日受けた TOEFL のリスニングもほとんどわかるようになっていました。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

留学をして、得られることは沢山ありますし、楽しいことも沢山あります。でもその分辛い事があることも忘れてはいけません。それを乗り切る自信、精神力も必要とされると思います。ただ海外に行きたい、住みたいという漠然とした希望ではなく、この国にいて自分はどうしたいのか、何を学びたいのか、どこの大学で自分の深めたい分野を学ぶことができるかとしっかりと考え目標設定をしてから留学へいくことが、向こうへ行ってから成功する秘訣だと思います。

N. H. 英語英文学科・3 年次

I. 留学レポート

① 留学決定から出発までの準備期間

語学研修に向けて TOEFL の勉強をしていました。あと、保険加入や、クレジットカード、インターナショナルバンクカードなどを作りました。

② 語学研修 (ESL, Academic Skills Study) 期間

Victoria に到着後の3ヶ月間は Uvic で ESL のクラスに入っていました。このプログラムは交換留学とは関係ないものなので、受講生がとて多くて、様々な国からの生徒との知り合うことができました。また、クラスは Academic(Acadimic writing 重視)クラスと General(Speaking 重視)クラスが7段階ぐらいのレベルに分かれていますし、Placement test が良ければ UAPC(Uvic 留学準備クラス)というクラスにも入ることが出来るので、自分のレベルにあった勉強を意欲的に出来ると思いました。実際、3ヶ月という短い期間に内容の濃い勉強ができ、正規科目にむけて十分に準備ができたと思います。

③ 正規科目履修期間

・ 履修科目の決定

履修科目は、大学が始まる3ヶ月ぐらい前に決定しなければなりません。その後、変更も可能ですが、人気のクラスはすぐに埋まってしまうので、早めにシラバスを手に入れて、コースを考えたほうが良いと思います。私は基本的に興味があった Linguistics の必修科目をたくさん履修していきました。その結果、同じ学生と毎日顔を合わせることになり、自然とクラスに馴染むことができたので良かったと思います。

・ 授業、レポート、定期試験

授業は、こっちでの生活が慣れてきたころに始まったので、特にひどく苦労したという経験はありませんでした。しかし、Reading と Writing は短期間にたくさんしなければならないので、授業に慣れるまでは、他の生徒より早め早めに課題を終わらせるように毎日予習していました。

Writing Centre という、Writing を添削してくれる場所もありますが、教科によっては利用不可であったり、あまり便利でないので、普段はクラスの友達に添削を頼んでいました。定期試験は、日本の大学よりも大変で、今までで一番勉強したと思います。

④ クラブ、課外活動、ボランティア活動

毎週水曜日にサルサと毎週金曜日に韓国語のクラブに参加していました。新しい友達を作る機会にもなりますし、クラブ活動には絶対に参加することをオススメします。

⑤ 現地での住まい (語学研修期間、正規科目履修期間) について (寮・ホームステイの決定方法、設備、イベント紹介など)

語学研修中はホームステイをしていました。ホストシスターと歳が近く、他にもメキシコ人や韓国人の生徒もいて、とても楽しかったです。一方で、門限や規則が厳しかったり、ホストマザーがめんどくさがりやだったので、夕食がなかったり、部屋の前に洗濯物が散らかっていたり、家事のことでめめることも多かったです。正規科目が始まってからは、自分でアパートを借りて一人暮らしをしていました。海外で一人暮らしは色々大変なことも多かったのですが、語学研修からの一番仲の良かった韓国人の友達と同じアパートに住んでいたため、毎日一緒に勉強をしたり、家事をしたり、とても良い人生経験になりました。

⑥ 長期休暇の過ごし方

夏の長期休暇は同女から友達が遊びにきていて、一緒に LA を旅行しました。また、私は前年に同女の語学研修プログラムでカナダのトロントに行った際に、現地に友達ができたので、その友達に会いに3週間ぐらいたロントに行きました。冬は1週間しか休みが無かったのですが、一人で NBA を見に Denver まで行ってきました。休暇中は特に勉強もせず、たくさん遊んで、リラックスしていました。

⑦ 留学期間中の就職活動の取り組み

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

色んな国の友達がたくさん出来たことです。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

一番辛かったのは、語学研修期間でした。クラスで唯一の日本人だった上、他の生徒は1年以上 Victoria に住んでいて、UAPC という正規の学生になる準備をするクラスだったので、4月に来たところの自分の英語力では着いていくのに必死ですごくストレスを感じました。リサーチペーパー15枚や一人30分プレゼンなど、膨大な量の課題で、クラスの途中で約半分の生徒が諦めてクラスを辞めてしまったのですが、先生やクラスメートとはとても仲がよく、お互い励ましあったので、最後までやり遂げ、クラスをパスすることができました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

クラスで積極的に発言すること、毎日パーカーにサンダルで学校に来ること、テストの点を普通に見せ合うこと、その点数が悪くても、いつでもポジティブなところ、などたくさんあります。

III. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

良かった点は、とても自由で、なんでも自分がしたいことが出来たこと。(一人暮らしをしたり、好きな科目が取れたり。)悪かった点は、特にありません。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの（パソコン持参の有無も含めて）

パソコン、厚手の服、日本食など。

③ 語学力の向上等、留学の成果

英語力よりも、興味があった言語学を学べたこと、たくさんの人々に出会えたことが自分の中でとても大きな成果だと思います。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

私にとって大学時での1年留学は、中学生のときからの夢でした。実際、ずっと「留学に行きたい」と思っているけど、TOEFL のスコアが取れなくて挫折しそうになったり、現地でも友達関係や勉強のことで何度も悩んだことがあり、辛くて泣いてしまったことだってありました。しかし、そんな中で、いつも支えてくれている親や友達の大切さに気付くことができましたし、自分は自分が思っている以上のことが出来るという自信もつきました。1年間、たくさんを経験し、たくさんの人に出会い、たくさんを吸収できて、この交換留学プログラムに参加して本当に良かったと思っています。もし、あなたがこれから留学を考えているのであれば、不安もあると思いますが、今しか出来ないことだと思うので、是非チャレンジしてほしいと思います。